

児童ら がん正しく学ぶ

患者体験談、病棟や装置見学

福井県済生会病院が教室



がん患者の講演を聴く小中高生ら＝4日、福井市の県済生会病院

らはがんの正しい知識を学んだ。

同病院は年2回、がんをテーマにした公開講座を開いており、その一環として子どもを対象にした催しを初めて企画した。小中高生や保護者ら125人が参加した。

講演で、血液のがんと乳がんを経験した福井市の山田きえさん(47)は「心のつらさは家族や友人、恋人に支えてもらった。皆さんも、病気の人がいたらそばに行ってあげて」と呼び掛けた。また治療中に「ヨガを通して、同じがん患者の支えになりたい」と思い、本場インドで学び、現在はヨガ講師として夢をかなえたことを紹介した。

がんの悩みなどを話し合う

「がん哲学外来」を提唱した

順天堂医学部の樋野興夫教授は「病气やがんも単なる個性」。

病气であっても病人ではない」と、がんとの向き合い方を話した。この後グループに分かれて、放射線治療装

置など院内を見学した。

親子で参加した高志中1年の小林奏心さんは「がんは身近な病气だと分かった。周りに患者さんがいたら元氣が出るようにしてあげたい」と話していた。(石井敬夫)

2017/3/5 福井新聞掲載

小中学生らを対象にした県済生会病院の「がん教育特別授業 “生きる”の教室」(福井新聞社共催)は4日、福井市の同病院で開かれた。がん患者の体験談講演や心身両方の痛みを癒やす「緩和ケア」の痛みを癒やす「緩和ケア」病棟見学などが行われ、児童